○白髭水

協和村を流れる荒川は、その名の如くいつも大洪水をおこして流路をかえる川であつた。

ある年も大洪水があつて、当時荒倉にあつた上野部落は、ひとたまりもなく流された。この大洪水のとき、白髪白髭白衣の老人が大樹の根に腰打ちかけて濁流を下つていつたという。そのことから誰いうとなく、この洪水を白髭水というようになつた。上野部落は、この洪水のときから川岸をはなれ、高台を選んで移住したという。

元の部落あとは田になつているが、村の中心にあつた神社だけは元の位置にある。荒川と宮田又沢川の合流地付近に河岸段丘より切りはなされた島状の台地が二、三あるが、これはそのときの洪水によつて切りはなされたものという。白髭水といわれる大洪水は、寛永九年（一六三二）とされている（荒　川）